

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度 第3回 高松市農業基本対策審議会
開催日時	令和5年10月25日（水）午後2時～2時55分
開催場所	香川県農業協同組合東讃営農センター 3階大ホール
議 題	(1) 成果指標の変更について (2) 高松市農業振興計画（案）の策定に係る答申について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	－
出席委員	〔高松市農業基本対策審議会委員：9人〕 吉村副会長、三笠委員、山田委員、溝渕委員、和田委員、間嶋委員、橋田委員、大西委員、荒川委員 〔高松市農業基本対策審議会専門委員：7人〕 武藤委員、吉田委員、山下委員、東原委員、太田委員、北濱委員、木村委員
傍 聴 者	2人（定員5人）
担当課及び 連 絡 先	農林水産課 農林計画係 電話839-2422

会議の経過及び結果

- 1 開会
(副会長及び局長挨拶)
- 2 意見に対する回答
事務局から、前回（第2回 高松市農業基本対策審議会）の会議で委員から質問された事項に対する回答及び対応策について説明した。
- 3 議題
副会長を議長とし、議題の協議が行われた。
 - (1) 成果指標の変更について
事務局から、資料1について説明したところ、内容については原案通り承認された。
 - (2) 高松市農業振興計画（案）の策定に係る答申について
事務局から、資料2について説明したところ、内容については原案通り承認された。

【主な質疑・意見等】

事務局から、前回（第2回 高松市農業基本対策審議会）の会議で委員から質問された事項について回答した。

事務局) 1点目、成果指標「学校給食における地場産物の利用の割合」については、「地元の食材を意識して購入している割合」に変更したい。

なお、個別の品目について「農林水産課調べ」として資料にて推定値をお示しする。(参考資料1、参考資料2)

2点目、経営が成り立つ農業については、次期農業振興計画に「農業経営モデル」として掲載したい。

3点目、新規就農者数については、市内の認定新規就農者における定着率をお示しする。(参考資料3)

4点目、適正価格については、国においても今まさに、議論されているところであるが、消費者である市民に農産物価格における価格転嫁の必要性などを情報発信し、理解して購入いただける環境づくりに努めてまいりたい。

5点目、「高松市産給食の日」について、市内の学校給食は約36,000食あることから、例えば1日であっても、一度に全て高松市産食材で提供することは難しいかもしれないが、例えば、市内の公平性を保った上で、エリア限定などでの取組の可能性を教育部門と協議し、検討してまいりたい。

6点目、取組項目を絞って重点的に進めていく点について、計17施策に21項目の成果指標を案として設定し、取組を進めることとしているが、それぞれに関連性があり、切り離せない重要な施策であるため、令和6年度から同時に並行して取り組む上で、効果測定を行ってまいりたい。

なお、審議会における定期的な進捗状況の点検及び評価時に、具体的な事業等の取組政策と併せて、プライオリティの位置付けを示していきたい。

7点目、「さぬきのめざめ」の品種名で販売する件について、実情は認識しているが、現状の流通面の課題の整理などを踏まえ、「さぬきのめざめ」として販売できる仕組みづくりをJAや県と協議してまいりたい。

委員) 前回、学校給食における地場産品の利用を、県産品の使用率で統計を取るのではなくて、高松市産の使用率で統計を取る方が高松市の農業振興について役に立つのではないかという趣旨であった。今回、「地元の食材を意識して購入する割合」という考え方は良いと思われる。高松市の農業振興について、地元で採れたものを地元で食べてもらう、特に学校給食で食べてもらうというのは、重要なことだと考えている。

参考資料2について、例えばブロッコリーについて、高松市の生産量は多いにもかかわらず、実際学校給食で使われているのは12月の一部というように、高松市で生産量はあっても学校給食で使われていない品目がある。現在、高松市で生産量はあるにもかかわらず学校給食で使われていない品目については、ききちんとマッチングできるような仕組みを作っていただきたい。また、冷凍や水煮等の加工品で納品される野菜についても産地を確認いただきたい。

なぜ、学校給食にこだわるかという点、高松市で農業をすることは水田面積が狭く作業がしづら
いというデメリットがあるが、高松市は人口が比較的多いことから、学校給食で高松市産を使っ
てもらうことで、新たに高松市で農業を始めるメリットは見えてくると思います。例えば、東京の小
平市は、学校給食で地産地消に取り組んでいて、10年くらい前は地元産がわずか5%程度しか使
ってなかったが、その後10年で30%程度まで上げて、地産地消ができる取組みをしている。他
の自治体の取組を参考にさせていただきたい。

また、韓国では学校給食は無償化になっていて、オーガニック・有機栽培のものを多く取り入れ
た学校給食を提供していると仄聞している。子どもの頃から有機栽培のものを食べていたら、大人
になっても有機栽培のものを食べるという習慣が着いてくると考える。地産地消の考えも、自分が
学校給食で食べていると、やがて大人になっても地元のもの食べたいという気持ちが湧いてくる
と思う。高松市産のものが学校給食で使われることで、農業に対する理解が深まり、担い手が出て
きてくれるような仕組みを作っていただくことが私の望みである。

事務局) 1点目、それぞれの品目の数値を示すだけでは不十分ではないかとの御意見についてですが、
成果指標の考え方については、学校給食への提供も踏まえて、今後の課題とさせていただきたい。

2点目、教育部門とのマッチングの仕組みづくりについて、現在農林水産課として教育部門と月
1回協議をし、品目を選定して無償提供を行っており、高松市産の割合の向上に取り組んでいる。
農産物、水産物、畜産物で何が学校給食の需要と供給に対応できるのか、また、冷凍品や加工品に
おける高松市産の割合について教育部門に確認させていただきたい。学校給食への安定提供の仕組
みづくりについても、協議をしてまいりたいと思います。他自治体の動向・取組みをしっかり調査
をして、高松市に反映できるものがないか、研究してまいりたい。

3点目、オーガニック給食が今後増えていくかについて、学校給食については、素材の流通量、
献立の問題、調理作業等、クリアすべき様々な課題がございますので、教育部門と協議をしながら
対応していく必要がある。有機農業の栽培面積の増大に限らず、環境にやさしい農業の栽培面積の
拡大などリンクしていこうかと思っておりますので、生産面の方からも環境にやさしい農業を進めていき
たい。

学校給食を通じて、子どもたちに地元のものを知っていただいて、シビックプライドを醸成して
いくことは大事な流れであると考えことから、学校給食で更に地元の食材を使っていけるよう
に、教育部門と協議をしていきたい。

委員) 学校給食に対する地場産品の運用については、農林水産課だけではなく、教育委員会、学
校給食会と現場との関係が重要である。調理作業員の作業性、予算の制約もあり、献立も年間
を通じて決まっていることから、農林水産課として、教育委員会、学校給食会と現場とのコン
タクトを取らなければ、地場産品の推進、利用率の向上はできにくいと考える。実情は、なか
なか厳しいと考える。

特に、オーガニック給食は、理念としては素晴らしいが、量的に整えられるかどうかを、十
分に吟味しておかなければならない。

委員) オーガニック給食を推進したいのではなく、地産地消を推進することで、大人になっても地産地消をする子どもが育つということをお伝えしたい。

事務局) 地産地消の推進体制のことで、関係機関、JA、市場、農林水産課、農業委員会で、各担当者が集まって協議する場が毎年1回あり、そこで一定の調整はしているところ。今後は、今回の意見を受けて、個々の品目についての実現性など、細かな協議・研究を進めてまいりたい。

また、オーガニック給食について、小中学校の学校給食には全く量が足りないのが現状。ただ環境にやさしい農業という観点から、有機栽培の面積を増やしていこうという方向性がある。現在、有機栽培では、米の面積が一番多いのだが、生産された米は、ほとんどが私立の幼稚園・保育園に行っているのが現状。実際問題となるのが価格であり、有機栽培の米は、慣行栽培の米の倍の値段で、価格面をクリアしていく必要もあり、相当ハードルが高いのが現状である。